

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570502799		
法人名	社会福祉法人 中央会		
事業所名	安心サポート本荘		
所在地	秋田県由利本荘市水林281-4		
自己評価作成日	平成23年1月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation">www.akita-longlife.net/evaluation</a>
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田市東通3丁目9-31		
訪問調査日	平成23年1月24日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活の中で孤立感を味わうことなく過ごせるよう、その人の立場に立ちながら、いつも寄り添ったケアに取り組んでいる。食事に関しては、併設施設である特養の苑長より、お手製の無農薬野菜や季節毎の山菜の差し入れもあり、新鮮かつ旬の食材を取り入れる事ができるため、とても喜ばれている。また、畑に野菜を栽培し、成長や収穫を共に楽しんでいる。併設の特養や同法人の保育園との合同の運動会やクリスマス会、誕生会も行われ、特に園児との触れ合いは入居者の方々も心待ちにされ、楽しまれている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

春にはホームから桜並木を眺めることができ、四季の変化を感じながら生活できる環境にあって、法人内の保育園児との相互交流や併設施設の行事での地域の方々との交流等、積極的に地域と関わって繋がりを大切にし、利用者の生活を支援しています。個別記録は詳細にわかりやすく記載されており、情報を共有して日々のケアに活かされています。利用者の生活リズムで過ごせるよう寄り添って見守り、理念に沿ったケアが実践されています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念I</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心を大切に」「すべてを受容し」「求めに応える」をモットーに、入居者一人ひとりが自分らしく生活して頂けるよう理念を作り上げ、ホーム入り口に掲示している。出勤時や毎月の会議の際に確認し合い、理念を実現できるよう努めている。	全職員が会議等で意見の統一を図り、利用者一人ひとりに向き合っており、理念に沿ったケアが実践されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市の敬老会への参加や町内の祭りなどにはできる限り参加し、また併設特養と合同で行っている納涼祭には地域の方にも参加して頂いている。	周囲に民家が少ないものの、隣家の方が畑で収穫したものを届けてくださったり、法人内の保育園児との相互交流や高校生のボランティアの受け入れ等地域との繋がりを大切にされた取り組みが積極的に行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議などで地域の方々へ提供できる事や役立つ事はないか話し合い、必要に応じて取り組めるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの現状や取り組みを報告し参加者より出た意見などをサービスの向上に活かせるよう努めている。	会議には利用者家族も参加されて開催され、避難訓練の状況や反省点等ホームの取り組みを議題に上げ、活発な意見交換が行われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などで市町村担当者より情報を提供して頂いたり、相談するなどしている。	情報交換や相談事等で連携を図り、利用者支援に繋げる取り組みがされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルを作成しており、日頃より拘束のないケアに取り組んでいる。日中は玄関には鍵をかけずセンサーにて対応しており、見守りを徹底した上で自由に出入りができるようにしている。夜間は面会時間終了後に施錠している。	全職員が身体拘束の弊害を理解し、言葉による拘束のないよう注意し合いながら取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、いつでも確認できるようになっている。また虐待があってはならないものと全職員が理解している。		

安心サポート 本荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護事業を活用させていただいている入居者がいるものの、全ての職員が詳しく理解している訳ではないため、今後は勉強会を行っていく必要があると思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時どちらの場合でも十分な説明と話し合いを行い、納得できた上で同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者との日々の会話の中や、ご家族の面会時にホームに対してのご意見や要望、不安に感じている事はないかを聞けるよう会話する機会を設け、改善できるよう努めている。	面会時には意見や要望を表しやすいように働きかけがされています。申し送りによって意見の統一を図り運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や普段の業務の中でも話し合いの機会を設けて、サービスの質の向上や職員の質の向上に努めている。	毎月の会議や申し送りの際に意見や提案が出され、運営に反映させる取り組みがされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の会議にてホームの状況や実績について報告している。具体的な実績(手当等)について、処遇へ反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回の法人研修や研修センター及び連絡協議会で行われている研修、また認知症介護実践研修など専門性のある研修も順次受講するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	由利本荘・にかほ地区でグループホーム連絡協議会を立ち上げ、その中で研修会や他施設見学、情報交換会などを行い、同業者と交流する機会を設けている。		

安心サポート 本荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	どのような生活がしたいか、困っている事や不安に感じている事を聞かせてもらい、安心して生活してもらえるよう情報を共有し対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在の状況から不安に感じている事などを聞かせていただくと同時に、グループホームの説明も十分に行い、ご家族の不安を少しでも軽減できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	献立を作る際には昔から食べられているその季節の料理を聞き、献立に取り入れたり、家庭菜園作りの際にも共同作業する事によって、昔からの生活の知恵を教わりながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に現状をこまめに報告すると共に、情報を共有するよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特別な場合を除いての家族や友人等の面会や外出、外泊の規制は行っておらず、これまでの関係が途切れないよう支援している。	手紙や電話での連絡を取り次ぐ等、これまで関わってきた方々との関係が継続できるよう働きかけがされ、利用者が安心して生活できるよう支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時には気の合う仲間同士と一緒に食事ができるようになっている。それ以外の時でも気の合う仲間同士でお互い声をかけ合い座って過ごされている。また職員が間に入り会話する事で、孤立せず過ごされている。		

安心サポート 本荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院により契約が終了する場合は、今後の事について相談に応じるなどしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で一人ひとりの希望や意向を把握し、その情報を全職員で共有するようにしている。	アセスメントや家族からの情報で生活背景を理解し、日々接する中で意向の把握に努め、情報の共有が図られています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活歴を知り、会話の中から本人の趣味や昔の仕事を聞き出し、日々の生活の中に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送りノート等にて一人ひとりの状態を把握してから業務にあたるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を立てる際には、職員間で意見を出し合い、本人の意見や要望はもちろんの事、ご家族の意見も取り入れながら一人ひとりが安心して生活できるような計画の作成に努めている。	担当職員が毎回評価を行い、全員で話し合った上で作成されています。ケア記録は詳細にわかりやすく記載され、計画の見直しにも活かされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりについて、その日の行動や生活状況、気づき等を記録し、情報を共有して介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

安心サポート 本荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民やボランティアの協力を得ながら行事等を通じて各機関との連携を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者一人ひとりの以前からのかかりつけの医療機関や、ご家族の希望する医療機関を受診している。	これまで利用してきたかかりつけ医で受診できるように支援されています。また、緊急時に備えてマニュアルを作成し対応されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養の看護職員や、入居者一人ひとりのかかりつけ病院の看護師に相談する等して対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの状況を詳しく病院側へ申し送るようにしている。また入院中の状態も把握できるよう連絡を取り合うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族・主治医との連絡を密にし、ホームでできる事とできない事を見極め、今後の方針を検討している。	事業所として対応できる支援を行うことを家族に説明し、理解していただいています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救急救命の講習を定期的に受講している。また緊急時の対応マニュアルを作成し、施設内研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち入りのもと、またホーム単独での避難訓練を行うと共に、運営推進会議や納涼祭などの行事開催時に地域住民の方々の協力を得られるようお願いしている。	夜間を想定した訓練が行われており、併設施設との協力体制もとられています。	

安心サポート 本荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応に努めている。また個人情報の取り扱いについても十分配慮している。	年長者として敬い、一人ひとりの人格を尊重した言葉かけで対応されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の要望に沿った対応を心がけ、また本人ができる事に関しては時間がかかっても入居者一人ひとりのペースに合わせて行ってもらえるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず一人ひとりのペースに合わせた対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	職員の意見を押し付けるのではなく、入居者一人ひとりの希望や好みを尊重している。また希望があれば髪の毛の染色を行ったり、併設特養やデイサービスに毎月来苑する理容師を利用する等している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日にはご本人の好みの食事を献立に取り入れている。また旬の食材を取り入れ、昔ながらの料理を教わりながら調理する機会を設けている。	利用者がホームの畑で収穫した野菜やいただいた食材の調理法を職員に教えてくれることもあり、個々の能力を活かしながら職員と一緒に作業が行われています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の特養の管理栄養士に相談したり、カロリー計算を行ってもらい栄養バランスが取れた献立になるよう配慮している。またその時々状態に合わせた水分補給やメニューの変更を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や就寝前のうがい・歯磨き・入れ歯の洗浄など援助しながら行っている。		

安心サポート 本荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツにパットを併用している方や、夜間のみ紙オムツを使用している方はいるが、一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的にトイレへの誘導や声かけを行っている。	一人ひとりの排泄パターンに合わせ、プライバシーに配慮した声かけや誘導によってトイレで排泄できるように支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に牛乳やヤクルトなどを飲んでもらったり、果物や野菜などの食物繊維を摂取できるように献立に取り入れている。また腹部マッサージを行ったり、全員とは言えないが、散歩や歩行訓練、簡単な体操を行ったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に毎日行っているが、入居者一人ひとりの希望や、その日の体調を考慮した上で行っている。	一人ひとりの体調や希望に合わせた入浴支援が行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転の生活にならないよう日中の活動を促している。眠れない入居者に対しては寄り添うなどの対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された時点で職員間で内容を確認し合っている。誤薬や飲み忘れがないよう日付を記入し、毎食ごと入居者一人ひとりに手渡し、若しくは介助して服薬確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの得意・不得意とする事を把握し、できる事を無理のないように日常生活の中に取り入れ、行ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	毎日とはいかないが、天候に合わせてドライブや近隣のスーパーまでの買い物、また同法人で経営している保育園の誕生会への参加など機会を作っている。	桜の時期には外にテーブルを出してお花見をしたり、畑での作業等季節に合わせて外に出かけ、様々な場面で地域の方々と交流を図る機会をつくって戸外に出られるよう支援されています。	



安心サポート 本荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全ての入居者ではないが、自分で管理のできる方に関しては小額ではあるが管理してもらっている。また買い物の際には手助けが必要な場合は手助けしながらも、できるだけ自分で支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人から手紙が届いた際には一緒に返事を出したり、遠方の家族への状態報告時などにも電話で会話できるよう支援している。また、それ以外の場合でもホーム内の電話はいつでも使えるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般家庭と変わりのないように調度にも配慮している。日当たりの良い窓には強い日差しを避けるスクリーンがあり、夏場にはすだれをかけるなど工夫している。また季節感を感じてもらえるよう、季節の植物を飾り、居心地良く過ごしてもらえるよう工夫している。	窓から四季の移ろいを感じながら、利用者は日中のほとんどの時間を居間で過ごしています。台所からは食堂を兼ねた居間を見渡すことができ、利用者が思い思いに過ごせるようソファが置かれて、くつろげるよう工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	居間と玄関にソファを置き、個々に自由にくつろげるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具などを持って来ていただき、家具の配置や飾り物なども本人と相談しながら行っている。	クローゼットが造りつけられており、ベッド以外は使い慣れた物を持ち込みそれぞれの生活の場となっています。加湿器を各居室に置いて健康面にも配慮されており、声かけや見守りによって歯磨き、整容ができるよう洗面台も設置されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内に段差はなく、廊下やトイレ・風呂場には手すりを配置している。またトイレにはトイレと分かるような工夫をし、居室に入れば自分の部屋と把握できるよう目印となる写真や花などを飾るなどしている。		